

＜第5回 若林地域会議 会議録＞

日 時 令和5年8月25日(金) 19:00～20:45
場 所 若林交流館 多目的ホール
出席者 委 員 17名
市 役 所 太田市長、辻部長、丹羽副課長、大光副課長
事 務 局 後藤部長、成瀬支所長、吉澤副支所長、松原副主幹、
川合主査、倉地主事
オブザーバー 森波館長

1 会長あいさつ〈省略〉

2 諮問について

(1) 市長あいさつ〈省略〉

(2) 諮問書授受

市長から会長へ諮問書を受渡し

(3) 諮問事項「第9次豊田市総合計画」の方向性について

企画政策部 企画課 丹羽副課長

都市計画課 大光副課長 より説明

〈委 員〉若林地域では若林駅を拠点として都市計画をしていくとのことだが、地主の承諾がもらえず、進んでいない部分がある点についてどう考えているか。

〈市 長〉土地の問題は非常に難しく、人によって様々な考え方があって然るべき。ただ、この地域の未来のためにどうしていくかを議論し続け、当事者意識を持ってもらうことが重要であると考えます。

〈委 員〉広報をデジタル化することはできないか。

〈市 長〉そういった意見は出ているが、紙ベースの広報を求めている方がいる以上、すぐに全てデジタルにすることは難しい。基本デジタルで配布し、交流館に必要部数の紙ベースの広報を設置する等の折衷案も検討している。

〈委 員〉区事務所としては広報の検索機能があると助かる。デジタル化をスタートするための出発点をどう考えているか。

〈市 長〉市民の方々の声を聞き、総合的に判断していくことなので、どのような状況になればスタートできるといったことではないと考えている。

〈委 員〉現在利用している竹村駅を含め、駅前の飲食店がなくなっている。今後の市内の駅前についてはどう考えているか。

〈市 長〉発想の転換にもあるとおり、「ないものを補う」から「あるものを生かす」ことが重要であると考えます。市民の方々の生活圏に現在あるものを利用し、そ

のお店を買い支えることが重要であると考えている。

〈委員〉こどもについての見通しが見えづらいが、どう考えているか。

〈市長〉横断的な目標に「こども」という言葉を入れている。9総では常にこどもの視点を持って具体策を考えていくと示している。待機児童の解消等の典型的なこどもの施策のみならず、都市計画等でもこどもにとって住みよい街を目指していくことを考えている。

〈委員〉イベントを実施する際に、屋根付きの施設があると天候に左右されず実施をすることが可能になるが、そういった公園等の施設を作ることは考えているか。

〈市長〉税金は優先順位をつけて利用する必要があるため、すべての地域に屋根付きの公園を作るのは難しい。

〈委員〉「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」とあるが、行政が自治区を巻き込むような取り組みはなくなっていくのか。

〈市長〉行政が全くリードしないというわけではない。今後も市が自治区にお願いすることはあると思う。

〈委員〉夜間運転しているときにライトがなく、歩行者が見えづらい部分がある。

〈市長〉区の事務所経由で市に連絡をすれば、地域の課題は迅速に対応できるようにしてある。

〈委員〉防災ラジオを地域の連絡媒体として利用することはできないか。

〈市長〉前提として防災ラジオは地域で使うことを考えていない。そういった声は地域からたくさんあるので、今後の活用方法について検討していく。

3 報告事項

(1) 第4回若林地域会議の会議録について〈省略〉

(2) 次期地域会議委員の選考について〈省略〉

(3) 若林ふれあいまつりの出展について〈省略〉

4 その他

(1) 令和5年度 若林地域会議の予定〈省略〉

★次回開催

第5回定例会：令和5年9月22日（金）午後7時から 場所：若林交流館 多目的ホール